

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立郡上高等学校

学校番号

32

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「凌霜」精神のもと、主体的に学び、可能性に挑戦。多様な他者と協働・共存し、ふるさとに誇りと愛をもち、地域社会に貢献・活躍する様々な人材を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	○自分に自信の持てる生徒 (自己肯定感の高い生徒) ○心が美しい生徒 ○ふるさとに誇りと愛情をもった生徒	○学びたいことが学べるカリキュラム ○やりたいことが思い切りできる教育活動 ○一流に触れさせ、本質や本物を求める授業等の展開	○やる気のある熱い生徒 ○人の気持ちの考えられる生徒 ○ふるさとを大切に想う生徒

3 評価する領域・分野	◇教務「教育課程・学習指導」		
4 現状の分析	○テストだけではない多角的な評価の仕方について生徒の理解が進んでいる。 ○ICTを活用した学習支援に対して、生徒・保護者等ともに高い評価をしている。 ▲生徒が肯定的な評価している項目について、保護者等の評価が必ずしも肯定的なわけではない。		
5 学校の抱える課題	◇シラバス配布及びその活用が適切になされている。 ◇生徒の満足感が保護者にまで伝わっていない。当校の取り組みやその意義を十分に発信できていない。		
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・指導と評価の一体化によりモチベーションを引き出す。 ・保護者等、地域への情報発信を強化する。		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 達成度や成長を可視化し、次のステップへ意欲をもてるような評価規準の作成。 (2) ホームページ、すぐメールを通じた学校行事の案内	(1) 学校アンケートへの回答 (2) 各種行事の際に寄せられた感想及び保護者等からの学校アンケート		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
・ルーブリックなどを活用した評価、生徒と教員による双方向の評価 ・体育祭や文化祭の他、特別講演会や芸術鑑賞会の案内及び招待 ・行き詰まりを感じている生徒に対する懇談	①評価の仕方が適切に周知されているか。 ②教員が、生徒の成果(成績)を自身へのフィードバックとして指導方法の改善に努めているか。 ③行事等への保護者等の積極的な参加が得られたか。	<p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>	
12 成果・課題	○多様な進路選択に合わせて多くの選択科目の設置、複数年次が同時受講できるカリキュラムを組んだ。 ○コロナだけでなく、インフルエンザやその他の疾病による出停(欠席)においてもICTを活用した学びを提供した。 ○観点別評価の運用について極端な偏りが見られなくなった。 ▲一部の選択科目について科目内の定員を超過し、希望する科目を選択できない生徒が見られた。 ▲選択の仕方について進路研究が不十分と思われる例が見られた。 ▲保護者等に対する行事案内において、勤務変更のタイミングに間に合わなかったなどの意見が寄せられた。		
13 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・選択科目の組合せや単位数について再検討する。 ・オンライン配信の簡便化を進める。 ・学力層の幅が広い集団に対して中・下位層の底上げと上位層の伸長を目指した学習活動の在り方、ICTの利用の仕方を探る公開授業、研究授業を行う。 		
		総合評価	
		A (B) C D	

- ・上記の他、研究授業・公開授業にテーマを設定し、教科を超えた研鑽の場を持つ。
- ・ホームページ以外にも月予定、行事予定などを配信する。

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月27日

【意見・要望・評価等】

- ・多様なカリキュラムから選択できる事は大変素晴らしいことではあるが、進路が定まっていない生徒は選択を迷うと思うので先生の支援が大切。
- ・時代の変化により求められる多様な進路選択に対応するため、様々な取り組みをされていて、成果もあるとのことで、学校の努力がなされている。
- ・より複雑化する進路について、幅広い対応がますます必要になっていくと思われる。教員のみなさんの負担も心配される。
- ・学力層の幅の広さへの対応について、進路選択の多様化も影響があると思われる。クラス単位で平準化することは大変だと推察するが、ICT教材など、テクノロジーも活用した生徒個々に応じた授業カリキュラムが研究されていくことを期待したい。

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立郡上高等学校 学校番号 32

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「凌霜」精神のもと、主体的に学び、可能性に挑戦。多様な他者と協働・共存し、ふるさとに誇りと愛をもち、地域社会に貢献・活躍する様々な人材を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	○自分に自信の持てる生徒 (自己肯定感の高い生徒) ○心が美しい生徒 ○ふるさとに誇りと愛情をもった生徒	○学びたいことが学べるカリキュラム ○やりたいことが思い切りできる教育活動 ○一流に触れさせ、本質や本物を求める授業等の展開	○やる気のある熱い生徒 ○人の気持ちの考えられる生徒 ○ふるさとを大切に想う生徒

3 評価する領域・分野	◇生徒指導・教育相談	
4 現状の分析	○生徒の評価「基本的なマナーモラル」「いじめや差別を許さず厳しく対応」は比較的高い ▲保護者の評価「生徒の相談に丁寧に応じる」「いじめや差別を許さず厳しく対応」は比較的低い方である	
5 学校の抱える課題	◇不登校、心に問題を抱える生徒、いじめ、人間関係を形成する力等に対して、内外部含めた組織的な対応が課題	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・気になる生徒への迅速な個別相談、聞き取り等を実施、情報収集 ・全職員又は関係職員での情報共有、組織的な初動対応	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 日頃の学校生活での気になる生徒への声かけ (2) 教育相談(春・秋期間)、県主体：心及びいじめアンケート(年間7回)での情報共有	(1) 各年次会、生徒指導・教育相談会、職員会議等での情報共有、対応協議、経過観察等 (2) 県・累計20日以上欠席者数報告、SC報告等	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・各年次会、生徒指導・教育相談会、職員会議等での情報共有 ・教育相談(春・秋期間)、県主体：心及びいじめアンケート(年間7回)実施 ・気になる生徒への声かけ、個別対応	① 気になる生徒の様子改善 ② 欠席・欠課の減少及び改善 ③ 自己受容後の進路実現への展望	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
12 成果 課題	○各年次会、生徒指導・教育相談会、職員会議等での情報共有ができています ○SC、市児童家庭課、警察等の外部機関との連携が迅速にできています ・ ▲不登校生徒数の増加、欠席・欠課数の増加、生徒自身の自己受容への支援、学習意欲の低下、無気力な生徒が多い等、コロナ禍を含めた「時代」への対応が課題	
13 来年度に向けての改善方策案	総合評価 A (B) C D	
・引き続き、気になる生徒への個別相談、各年次会、生徒指導・教育相談会、職員会議等での情報共有 ・生徒の自己受容を促し、進路実現に向けた取り組み・支援を組織で考える ・中高連絡会等、中高の連携を引き続き深め、外部機関にも協力・連携していただき、将来を見据えた支援を展開していく		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和 年 月 日

【意見・要望・評価等】
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育と最も関わりの深い分野とも思われますので、PTA や地域との連携も重要と思われます。方針などの情報発信も含め、家庭や地域でできることを投げかけて頂いても良い。 ・「無気力な生徒が多い」という課題について、生徒側の「特に理由がない」という学校側の悩みがわかった。「無気力」は社会全体の課題でもあるので、外部機関とも連携しながら、情報共有や研究いただくことを望む。 ・生徒は、大人がケアしてくれることに慣れており、「自分たちで人間関係の構築、修復ができない生徒もいる」「生徒の自立、自己解決能力をどうつけるか」「生徒個々のありかたもあり、学校全体の課題としにくい」という、学校側の悩みがわかった。上記と同様、社会全体の課題でもある。

・一方で、探究活動では活動を通して「自己効力感」を感じた生徒もいるのでは、と思った。社会人においても「小さな成功体験」が必要とされるが、学習やプロジェクトを通して、コミュニケーションや自身で企画・実行できる機会をどのように学校内でつくれるかが今後ますます重要になるのではないかと感じた。

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立郡上高等学校 学校番号 32

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「凌霜」精神のもと、主体的に学び、可能性に挑戦。多様な他者と協働・共存し、ふるさとに誇りと愛をもち、地域社会に貢献・活躍する様々な人材を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	○自分に自信の持てる生徒 (自己肯定感の高い生徒) ○心が美しい生徒 ○ふるさとに誇りと愛情をもった生徒	○学びたいことが学べるカリキュラム ○やりたいことが思い切りできる教育活動 ○一流に触れさせ、本質や本物を求める授業等の展開	○やる気のある熱い生徒 ○人の気持ちの考えられる生徒 ○ふるさとを大切に想う生徒

3 評価する領域・分野	◇進路指導・(探究活動)	
4 現状の分析	○保護者・生徒が必要とする進路情報を適切に提供できている。 ▲進路目標の設定に時間がかかり、進路選択に関わる取組みへの動き出しが遅くなる生徒もいる。	
5 学校の抱える課題	◇将来学びたいことや就きたい職業など、生徒自らの進路目標がなかなか定まらない生徒への対応。 ◇総合型選抜、学校推薦型選抜への早期かつ計画的な対応	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりが自らの個性や適性を理解し、自己の在り方や生き方を考え、主体的に進路選択ができるよう、時期に応じて進路情報を提供する。 探究活動…地域の人材や伝統・文化等の教育資源を活かし、課題解決に向けて生徒が主体的に考え活動し、表現する力を身につける。 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 主体性を育て、進路目標を早期設定するためのキャリア教育、ガイダンスの計画的な実施 (2) 外部の指導力を活用した進路行事の実施 (3) 地域の中での具体的な活動の実施	(1) 必要な進路情報やガイダンスを計画的に提供 (2) 外部を活用した進路行事を実施 (3) 中間報告・発表会を実施	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> 多様な進路希望に対応したガイダンスの実施と情報提供 外部(行政、企業、地域等)と連携したキャリア教育・探究学習の推進 生徒のガイダンス等の参加状況 	①必要な情報を提供できたか ②外部の人材を活用した取組みであったか。 ③生徒のガイダンス等への参加状況	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
12 成果 課題	○大学進学、専門学校、看護医療系、就職など、多様な進路希望に応じたガイダンスを各年次で実施提供することができた。 ○探究活動の取組みが、自身の進路選択へとつながる生徒が少しずつ増えてきた。 ・ ○地域の課題に目を向け、地域の方々のサポートを得て活動を進めることができた。 また、活動の内容を地域に発信することができた。 ▲学校推薦型選抜、総合型選抜を志望する生徒への対応については、今以上に早期かつ計画的な対応が必要。	
13 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の希望に応じた計画的な進路ガイダンスの実施および進路情報の提供。 学校推薦型選抜、総合型選抜を希望する生徒への早期かつ計画的対応。 探究と地域の活動の連動、成果を外部コンテストに応募する等の実践の継続。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月27日

【意見・要望・評価等】
<ul style="list-style-type: none"> 探究活動を通して、自身の興味をより深く探究することや、リアルな社会での生業を目の当たりになることで、生まれ育ったふるさとでの自らの居場所を見出す事に繋がれば何より。地域との繋がりをうまく活用してほしい。 地域の発展には人材育成が大切。そのためにも、地域課題を考える探究活動は地域社会を担う人材育成

の基礎になる活動である。今よりもっと地域の大人を活用し、つながることで地域の未来を創る人材になってほしい。

- 「総合的な探究の時間」は学外での発表機会に積極的に応募するなど、非常に熱心に取り組まれている。また、「観光甲子園 2023」での受賞もされた。教員の指導は先進的で、高く評価されるべきものである。
- 普通科の「総合的な探究の時間」や、農業科の研究活動が、選抜型入試など進路選択につながっているということだった。とても素晴らしいことだと思う。同時に、「探究」は自身を知ること、また学習を通して自己成長するというキャリア教育の側面も大きく期待されているので、「入試のための活動」になりすぎないように、注意が必要だと感じる。
- 普通科の「総合的な探究の時間」がカリキュラムとして充実する一方、自身のやりたいことがわからない生徒にとっては、より混迷を深めることも予想される。「最後まで悩んで終わる生徒もいる」と伺った。「小さな成功体験」のためには、ひとつのアイデアとして、「総合的な探究の時間」の中で「文化祭」をプロジェクト化することを提案したい。「総合的な探究の時間」でテーマをまだ見つけられない生徒は、文化祭の運営をプロジェクトとして取り組む、ということが考えられる。運営は、全体運営のほか、展示物の制作、クラスや部活などの出展、広報、会計など、様々なプロジェクトマネジメント (PM) 案件があるとよいのではないだろうか。

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立郡上高等学校 学校番号 32

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「凌霜」精神のもと、主体的に学び、可能性に挑戦。多様な他者と協働・共存し、ふるさとに誇りと愛をもち、地域社会に貢献・活躍する様々な人材を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	○自分に自信の持てる生徒 (自己肯定感の高い生徒) ○心が美しい生徒 ○ふるさとに誇りと愛情をもった生徒	○学びたいことが学べるカリキュラム ○やりたいことが思い切りできる教育活動 ○一流に触れさせ、本質や本物を求める授業等の展開	○やる気のある熱い生徒 ○人の気持ちの考えられる生徒 ○ふるさとを大切に想う生徒

3 評価する領域・分野	◇特別活動	
4 現状の分析	○学校行事に前向きに取り組み、当日はもちろんだが、準備、片付けともに協力して取り組むことができる。 ○約8割の生徒が部活動に参加している。また、未加入の生徒も地域のクラブ活動に参加するなど積極的な取り組みが見られる。 ▲学業との両立が難しい	
5 学校の抱える課題	◇生徒数の減少により、学校行事や部活動への予算が削減され、活動が制限される。 ◇教員の働き方改革と学校行事・部活動の関係性	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・学校行事の生徒主体の運営と活性化 ・適切な部活動の運営と活性化	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 関係生徒と職員との連携 (2) 生徒が意見しやすい雰囲気づくり	(1) 生徒や保護者からの声 (アンケート) (2) 部活動の加入率	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・生徒会・生徒議会を中心に、生徒の意見を集約し、学校行事に取り入れた。 ・各行事の運営方法の見直しを図り、生徒・職員ともに負担の少ない学校行事を心がけた。 ・部顧問会議や職員会議にて部活動の適切な運営について全職員に周知した。	① 生徒の意見が反映した行事となったか ② 生徒・教員の負担はどうだったか ③ 部活動は活発に行われているか	A (B) C D A (B) C D (A) B C D
12 成果 課題	○生徒主体の運営によりマネジメント能力が育まれた ○生徒の意見を多く取り入れたことにより、行事が活性化された ▲学校行事に新しい取り組みを加えたことでルール作りなど新たな業務が増え、関係者職員・生徒の負担となった。例) 文化祭の屋台など	
13 来年度に向けての改善方策案	コミュニケーション能力や問題解決能力など多くの能力が育つ学校行事や部活動を今後も継続していくためには、効率的な運営にする必要がある。 部活動を活性化させるためには、外部指導員の活用、専門的に指導できる指導者の配置が必要である。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月27日

【意見・要望・評価等】
・学校生活の中で仲間との結束を図ることや、主体性を育むのに重要な取り組みだと思えます。また、思い出の大半がこれらの活動だと思えますので、生徒たちの自主的な運営ができるよう指導して頂けると良い。
・コロナ禍が沈静化し、学校行事が再開し、文化祭が復活したのは喜ばしいが、教員の負担が大きかったとのことだった。これには、調整やルールづくりなどの業務が増えたことも要因である、とのことだった。

- ・別項と関連するが、学内のルールづくりについても探究学習の良い題材になるので、ぜひ授業（総合的な探究の時間）でも取り扱ってはどうか。（参考：[「みんなのルールメイキング」](#) NPO 法人カタリバ）

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立郡上高等学校 学校番号 32

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「凌霜」精神のもと、主体的に学び、可能性に挑戦。多様な他者と協働・共存し、ふるさとに誇りと愛をもち、地域社会に貢献・活躍する様々な人材を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	○自分に自信の持てる生徒 (自己肯定感の高い生徒) ○心が美しい生徒 ○ふるさとに誇りと愛情をもった生徒	○学びたいことが学べるカリキュラム ○やりたいことが思い切りできる教育活動 ○一流に触れさせ、本質や本物を求める授業等の展開	○やる気のある熱い生徒 ○人の気持ちの考えられる生徒 ○ふるさとを大切に想う生徒

3 評価する領域・分野	◇保健厚生																										
4 現状の分析	○生徒の安全・衛生面に配慮し、交通事故や痴漢防止等の安全指導を行っている。90%の回答を得ている。 ○地震や台風等の場合の対応についての対策マニュアルを示し、説明している。90%の回答を得ている。																										
5 学校の抱える課題	◇個に応じた健康指導の実施。生徒の健康問題に対する危機管理と管理職および関係者との連携の充実と全職員の共通理解。 ◇安全及び防災に対する意識の向上と適切な行動選択ができる能力の育成																										
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・自主的に健康管理ができる保健指導の実施。 ・安全で快適な学校環境衛生活動の実施。																										
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標																										
(1) 個に応じた健康指導の実施 (2) 心に問題を抱える生徒の把握と支援、教育相談活動との連携 (3) 環境衛生についての理解と適切な取組 (4) 安全及び防災に対する意識の向上と適切な行動選択ができる能力の育成	(1) 感染予防対策の徹底と環境整備。医療機関への受診率の向上。生徒個人指導の充実のために全職員共通理解。 (2) 的確な観察と早期発見。全職員の共通理解。 (3) 清掃活動の充実(職員、生徒の意識向上) (4) 命を守る訓練、安全点検等の実施の取組状況																										
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価																									
①定期健康診断結果を基に、個別指導を行い、治療率の向上を目指した。 ②保健委員会、厚生委員会を活用し、教室内の日常点検を行い、環境整備に努めた。 ③危機管理マニュアルに準じて、命を守る訓練を実施した。	①健康管理に対する意識を向上させることができたか。 ②点検結果が清掃活動に反映されているか。 ③防災意識を高めることができたか。	<table border="0"> <tr> <td><input checked="" type="radio"/></td> <td><input type="radio"/></td> <td><input type="radio"/></td> <td><input type="radio"/></td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/></td> <td><input checked="" type="radio"/></td> <td><input type="radio"/></td> <td><input type="radio"/></td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/></td> <td><input type="radio"/></td> <td><input type="radio"/></td> <td><input type="radio"/></td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>		<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	A	B	C	D	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	A	B	C	D	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	A	B	C	D
<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>																								
A	B	C	D																								
<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>																								
A	B	C	D																								
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>																								
A	B	C	D																								
12 成果 ○危機管理マニュアルに準じて、消防署員からの指導を得て、全職員で命を守る訓練を実施した。危機管理マニュアルの改善にも取り組めた。 ○定期健康診断の実施、日々の生徒の健康状態の把握・確認・対応等、様々な部署・年次学年等と連携、協力を得ながら実施することかできた。 課題 ○学校保健安全委員会の運営方法の確立。 ▲第1本館大規模改修後のワックスがけを含む掃除方法と通常掃除の時間確保についての検討が必要である。	総合評価 <table border="0"> <tr> <td><input checked="" type="radio"/></td> <td><input type="radio"/></td> <td><input type="radio"/></td> <td><input type="radio"/></td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>			<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	A	B	C	D																
<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>																								
A	B	C	D																								
13 来年度に向けての改善方策案 ・第1・2本館大規模改修後のワックスがけを含む掃除方法を検討する。 ・安易に掃除の時間をカットすることないように、計画を立て行事を実施ように啓発する。																											

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月27日

【意見・要望・評価等】

・コロナ禍が沈静化し、学校行事が再開したことで、清掃時間が取られて減った、とのことだった。掃除は自分たちの環境をより良くするものとして大切な活動だと思うが、少子化で生徒数が減ることも予測されるので、毎日清掃を行うところと、定期的に行うところの区分けが必要となっていくのだと思われ

る。その中で、「清掃＝作業」ではなく、主体性や積極性が育まれる学びのあり方を期待したい。（「学校の清掃をイノベーションする」というのも、プロジェクト化できそう）

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立郡上高等学校 学校番号 32

I 自己評価

1	学校教育目標	校訓「凌霜」精神のもと、主体的に学び、可能性に挑戦。多様な他者と協働・共存し、ふるさとに誇りと愛をもち、地域社会に貢献・活躍する様々な人材を育成する。		
2	スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
		○自分に自信の持てる生徒 (自己肯定感の高い生徒) ○心が美しい生徒 ○ふるさとに誇りと愛情をもった生徒	○学びたいことが学べるカリキュラム ○やりたいことが思い切りできる教育活動 ○一流に触れさせ、本質や本物を求める授業等の展開	○やる気のある熱い生徒 ○人の気持ちの考えられる生徒 ○ふるさとを大切に想う生徒
3	評価する領域・分野	◇ 渉外活動		
4	現状の分析	○保護者は総じてPTA活動に協力的である。 ▲一部に学校からの連絡が滞ることがある。		
5	学校の抱える課題	◇生徒数の減少により、次年度以降の会計執行が困難になることが予測される。		
6	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・定期総会の充実 ・持続可能なPTA活動の在り方についての検討 ・部活動、地域活動等の後援 		
7	目標の達成に必要な具体的な取組		8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
	(1) 総会と進路行事の同日開催により参加を促し、活動への理解と協力を求める。 (2) 持続可能なPTA活動をめざし、各行事と支部の在り方を見直す。 (3) 地域活動活性化の支援を検討する。		(1) 各行事への保護者の参加の様子 (2) 行事開催の様子と支部の統合提案の進捗状況 (3) 地域活動を支援する体制整備	
9	取組状況・実践内容等		10 評価視点	11 評価
	<ul style="list-style-type: none"> ・5月にPTA総会と3年次進路行事を同日開催し全校で37.6%(①39%年26%③48%)の参加があった。特に3年次の出席率は高かった。 ・対面での行事開催が可能となり、総会、文化祭や体育祭見学等多くの保護者の参加があった。支部統合は今年度中の提案を予定している。 ・全校生徒、全職員加入の地域活動組織を立ち上げ、活動を支援する体制を整えつつある。 		①各行事の出席率と感想 ②支部統合をめざした提案とその進み具合 ③地域活動を支援する体制整備の具現化	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
12	成果・課題	○総会と3年次進路行事を同日に行い、保護者の負担を軽減した結果、3年次を中心に参加者が増加した。授業参観だけの参加者もおられ、学校での様子を知りたい保護者の要望は少なくないと感じた。 ○文化委員会を中心に文化祭においてキッチンカーを導入し、食品バザーを実施することができた。生徒、保護者には大好評で、次年度の継続を望む声が多数あった。なかには「文化祭のキッチンカーがやりたいから」と、次年度支部役員への立候補があった。 ○PTA組織のスリム化をめざし、支部の見直しを行った。 ▲総会と3年次進路行事を同日に行ったことは、成果が上がった一方で、学校側の負担が増すこととなり、次年度に向けて日程等の調整が必須である。 ▲PTA活動について、学校側と保護者側との意見の調整には課題を感じるがあった。		総合評価 A (B) C D
13	来年度に向けての改善方策案			
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒数減少による会費減少への対応は喫緊の課題だと考える。次年度予算の編成の段階で、会費の使い道の精選と、部活動派遣費の見直しを行いたい。 ・支部の統合については、令和7年度からの実施をめざし規約改正など実施したい。 			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月27日

【意見・要望・評価等】

- PTAの在り方は全国的に見直しや改革が叫ばれています。少子化により生徒が減少する状況で支部の在り方については必要と思われませんが、面積の広い郡上においては悩ましい課題とも言えます。
「入会して良かった」「私にもできることがあれば…」と思われる様な、シンプルでわかりやすいPTAを目指していただけると良い。
- PTA組織のスリム化があったとのことだった。昨今、全国でPTAの上部組織からの退会などがニュースとして取り上げられている。生徒のより良い学習環境づくりのためには今後も家庭と学校の連携は必要だと考えるが、今後少子化が進む中、適切なしくみは模索される必要があると考える。また、学校と家庭だけではなく、それを取り巻く地域との連携も今後ますます必要だと考えられる。「地域でこどもを育てる」という地域学校連携の趣旨のもと、学校運営協議会を基盤とした地域連携による体制をつくることで、PTAとして担っていたもののスリム化をしながら、地域社会と協働によりその役割を代替していくことも検討していくのはどうだろうか。

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立郡上高等学校 学校番号 32

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「凌霜」精神のもと、主体的に学び、可能性に挑戦。多様な他者と協働・共存し、ふるさとに誇りと愛をもち、地域社会に貢献・活躍する様々な人材を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	○自分に自信の持てる生徒 (自己肯定感の高い生徒) ○心が美しい生徒 ○ふるさとに誇りと愛情をもった生徒	○学びたいことが学べるカリキュラム ○やりたいことが思い切りできる教育活動 ○一流に触れさせ、本質や本物を求める授業等の展開	○やる気のある熱い生徒 ○人の気持ちの考えられる生徒 ○ふるさとを大切に想う生徒

3 評価する領域・分野	◇ 農業科指導																						
4 現状の分析	○現体制が確立し、特色ある学習活動を展開している。 ○個々の生徒に応じた、多様な進路実現がなされてきた。 ▲学習活動への認知度向上が課題。																						
5 学校の抱える課題	◇専門教育を深化させるに当たり、基礎科目、共通科目の工夫が見られるが、2年次以降の専門教育の時間が短く、学びの深化が遅れがちになる。 ◇実習生産物販売所「郡高マルシェ」の農業科教育における位置づけが不明瞭。																						
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の技術力向上 ・総合農業学科の学びの位置づけ ・地域連携と実習生産物販売所「郡高マルシェ」の位置づけ ・将来を見越した学習内容の充実 ・施設設備の管理と活用 																						
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標																						
(1) 技術力向上のための校内外研修 (2) 総合農業学科と各科の学びのつながり (3) 地域の認知度向上 (4) 進路指導と学科の学びの充実 (5) 環境整備と施設、設備管理	(1) 個々の校内外の研修の実施 (2) 農業科職員と1学年次の連携 (3) あらゆる手段で地域への発信 (4) 関連進路への進学、就職希望の向上 (5) ほ場の割り振り、作付けの工夫																						
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価																					
(1) あらゆる機会を捉えた研修の実施 (2) 学習内容の共有と実習の充実 (3) SNSや掲示による地域発信 (4) 進路実現に係る集団、個別指導 (5) ほ場の再編	(1) 研修の取り組み状況 (2) 情報交換 (3) SNSの取り組み (4) 進路関連率 (5) 校内の圃場整備状況	<table border="0"> <tr> <td>A</td> <td>(B)</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>(C)</td> <td>D</td> </tr> </table>		A	(B)	C	D	A	B	(C)	D												
A	(B)	C	D																				
A	(B)	C	D																				
A	(B)	C	D																				
A	(B)	C	D																				
A	B	(C)	D																				
12 成果 課題	<p>○職員それぞれで課題を持ち、解決に向けた研修活動を実施した。自己研鑽のみならず、外部への発信も積極的に行うことができた。</p> <p>○1年次の副担任に科長を置き、年次会の情報を学科で共有することができた。</p> <p>・ ○専門教育への橋渡しとしての総合農業学科の学びを展開できた。</p> <p>○公式インスタグラムを開設し、地域への発信を積極的に取り組んだ。</p> <p>○農学部や農学系進路に進む者が増加した</p> <p>▲圃場整備と改編に取り組んでいるが、道半ばである。</p> <p>▲郡高マルシェの校内での位置づけが定まらず、生徒の活動が最小限</p>		総合評価 A (B) C D																				
13 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・ 郡高マルシェを活用した流通に関する学びを全ての学科で組み込む ・ ほ場面積の増加を図る 																						

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月27日

【意見・要望・評価等】

- ・専門的で、レベルの高い指導をされている様子が、学習発表からもよくわかった。
- ・カリキュラムの都合もあると思うが、消費者あつての農業と考えると、郡高マルシェは重要な存在。消費者の声を聞けるお店は必要。
- ・課題研究のテーマは、年ごとに新しいテーマを発想するだけでなく、教員側からある程度指定して、次の学年に継承して発展させた方が、研究が深まるのではないか。
- ・実践的な様々な取り組みをされている。専門外の指導も勉強されているとのことで、教員方の努力と尽力は大変なものだと推察される。
- ・発表会で、継続研究の発表内容は素晴らしいものだった。内容について専門性も高く、これまでの研究の蓄積がある継続研究だからできるものもあった。
- ・一方で、継続研究について生徒の興味関心とのマッチングの課題があるとのことだった。しかし前述の生徒指導の課題と照らし合わせても、生徒に自身の興味関心があることは、とても良いことだと考える。IT技術の進歩や新しいマーケットなど、農業科の分野は今後ますます裾野が広がることが予想され、進路や将来としても、従来の1次産業だけではない新規就業ジャンルも予想される。教員の指導はとても大変だが、ぜひ生徒の興味関心を広げる・深めることに学校全体として取り組まれることを期待する。
- ・普通科の「総合的な探究の時間」でも、食や自然に関するものも多く見られた。今後社会で求められる人材像は、幅広い興味関心を持ち続ける探究心を持った者である。そのためには多様な人々との対話や交流が特に有効であるため、多様な学科を持つ郡上高校は可能性に満ちた学校である。学校のカリキュラムとの兼ね合いは大変だと推察されるが、普通科と農業科の学生同士の情報交換や共同プロジェクトなど、多様なコミュニケーションを生み出す取り組みをぜひ期待したい。

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立郡上高等学校

学校番号

32

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「凌霜」精神のもと、主体的に学び、可能性に挑戦。多様な他者と協働・共存し、ふるさとに誇りと愛をもち、地域社会に貢献・活躍する様々な人材を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	○自分に自信の持てる生徒 (自己肯定感の高い生徒) ○心が美しい生徒 ○ふるさとに誇りと愛情を もった生徒	○学びたいことが学べるカ リキュラム ○やりたいことが思い切り できる教育活動 ○一流に触れさせ、本質や 本物を求める授業等の展開	○やる気のある熱い生徒 ○人の気持ちの考えられる 生徒 ○ふるさとを大切に想う生 徒

3 評価する領域・分野	◇寮指導
4 現状の分析	○継続した寮生の確保ができています ▲施設設備の老朽化に伴う故障や修繕が多い
5 学校の抱える課題	◇食材費や光熱費の高騰による運営経費の負担 ◇舎監や炊事員の確保が困難である
6 今年度の具体的かつ明確な 重点目標	・衛生管理の徹底 (集団感染の防止・食中毒の予防) ・運営経費削減 ・生活・学習習慣の確立 ・生活環境の向上と安心安全の確保

7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標
(1) 衛生管理の徹底 ・寮生、炊事員、舎監の手洗いを徹底。換気、除菌を徹底。検温や体調管理の把握。食品、食材の適切な保管。保存と温度管理の徹底。 (2) 運営経費削減 ・食品ロスを減らす。空調や設備利用を適切に行う。 (3) 生活・学習習慣の確立 ・身だしなみや身の回りの整理整頓を心がけさせる。時間厳守を徹底させる。学習時間を確保させる。 (4) 生活環境の向上と安心安全の確保 ・寮の規則を守らせ、生活しやすい環境づくりに努めさせる。不良箇所、危険箇所の早期発見に努める。点呼時や巡回時に健康状態の聞き取りをする。	(1) 健康チェック票による点検・注意喚起 (2) 寮会計報告 (3) 舎監による口頭、日誌報告 (4) 炊事員や寮生からの申告

9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・舎監と寮生が点呼時に、情報交換をする ・寮生の意見の反映 ・舎監、炊事員の意見の反映	①舎監による観察 ②生徒・保護者への聞き取り ③舎監による聞き取り	A (B) C D A (B) C D A (B) C D

12 成果 課題	○5名の1年生が入寮をした。 ○コロナ5類移行に伴い、食堂パーティションの撤去等をした。感染対策には継続して取り組んだ。 ・○部活動で利用する寮生のために、8月・3月の学休日開寮をした。 ▲施設設備の老朽化に伴う経年劣化での故障や修理が依然にして多い。 ▲炊事員の確保が困難になりつつある。	総合評価 A (B) C D
-------------	---	-------------------

13 来年度に向けての改善方策案

- ・市内外から入寮生の確保に引き続き努める。
- ・施設設備の更新を行う。

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月27日

【意見・要望・評価等】

- ・入寮生の増加は、8月・3月の学休日の開寮による効果も大きいのではないかと考える。
- ・寮生は、県外から入学し、部活動で利用する者が多いとのことだった。課題として、舎監や炊事員の確保が困難となっているとの報告があった。今後10年を見据えた上で、学校の生徒募集およびそのための寮のあり方を検討してもよいのではないかと考える。県外の事例ではあるが、徳島県神山町の県立高校では、県外から生徒を募集し、寮は民間運営（町出資の一般社団法人）の事例がある。また、寮の食事はすべて高校生がつくっているが、それにより自主性やコミュニケーション力が育まれているとのことだった。寮も教育機能の一環であると考え、今後の高校の寮に求められるものに新しい側面があるのではと考える。